

飼料用米の新品種「そらゆたか」

早生・耐冷・耐病・多収で低コスト安定生産可能な飼料用米品種

研究開発の背景

- 北海道の飼料用米「たちじょうぶ」等の晩生多収品種は栽培適地が限られる一方、主食用品種である「ななつぼし」等の多肥栽培による生産では、収量性、耐倒伏性等の点から安定生産が課題となっている。

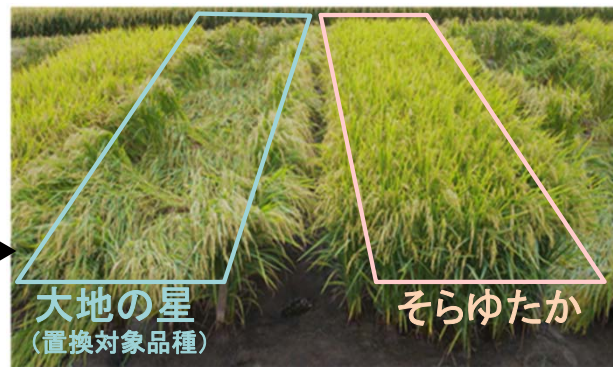
研究成果の内容

早生で耐倒伏性、耐冷性、耐病性に優れた飼料用米品種

- 北海道における出穂期は**早生の晩**で移植栽培に加えて直播栽培も可能である。
- 置換え対象品種の「ななつぼし」に比べて**耐倒伏性に優れる**。また、穂ばらみ期**耐冷性は極強**、**いもち病抵抗性は葉いもちが強**、**穂いもちがやや強**と優れ、冷害および病害等の障害耐性が向上している。

「そらゆたか」の各種障害抵抗性

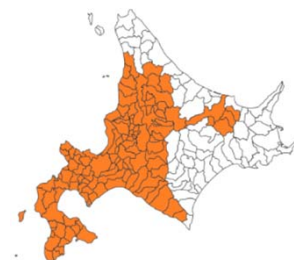
障害抵抗性	ななつぼし 置換え対象品種	大地の星 置換え対象品種	そらゆたか
耐倒伏性 (倒れにくさ)	やや弱	中～ やや強	やや強
耐冷性 (冷害への強さ)	強	極強	極強
いもち病抵抗性 (重要病害への強さ)	やや弱	強	強



直播栽培における収穫期の状況

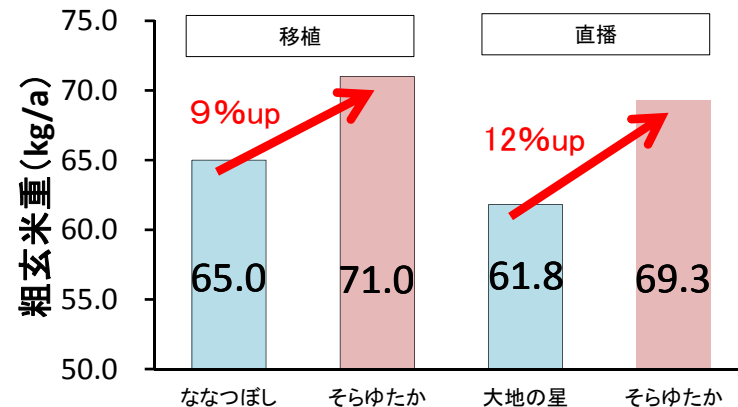
導入メリット

北海道全域で普及可能で、低コスト安定生産を実現



移植栽培可能地域

北海道全域で移植栽培が可能。置換え対象品種に比べて**収量増**に加え、**耐病性、耐倒伏性**等の向上により、**低コスト安定生産**が可能となる。



置換え対象品種に比べ収量性が約1割向上 (5ヶ年平均)

期待される効果

- 飼料用米の安定生産に寄与し、北海道において約1% (乳牛) から約9% (豚) の輸入濃厚飼料の代替が可能。

導入をオススメする対象
北海道の水稲生産者